

～OB&OG 紹介 PART.6～

今回は、最近 2 児の父になった、31 回生 佐藤裕介さんをご紹介しますと思います。

齊藤(以下 SA): 宜しくお願いします。

佐藤(裕)(以下 S): よろしくおねがいします。

SA: ご職業を教えてください。

S: 通信関係の仕事をしています。

SA: 大学までのスポーツ歴を教えてください。

S: 小学校 3 年～中学生までは野球をやっていました。

高校は何もやっていませんでした。

SA: EAGLES との出会いを覚えている?

S: Uチは、ご存知の通り\*兄(佐藤俊介)がEAGLESでやっていたので、アメフト自体は高校生の時から家の中でビデオが流れていたの存在自体は知っていましたね。

\* 佐藤俊介: 27 回生 現役時 LB EAGLES 27 代主将

SA: 兄貴が入っていたから、必然的に勧誘されたの?

S: いや。最初は隠していましたよ。音楽やろうと思ってたんで(笑)

最初は\*武内さんに声をかけられて、「どう!」みたいな感じで印象的でしたよ。

ちょうど学校帰りに誘われたんですけど。その時、武内さんが丸坊主で後ろからの夕日が武内さんに対して後光が射している様に見えたのを覚えてます。

『仏様だ。』ってのを、未だに覚えています。

\* 武内要輔: 30 回生 現役時 OT(LINE) 卒業後、富士通フロンティアーズ(X1)→クラブ・オックス(X2)

SA: 入ってみてどうだった?

S: 浪人していたこともあって、高校も浪人中も運動は全くやっていなかったの、キツイだろうなあと。

当時の主将の\*大野さんに、「体力は無いんで」って言ったら、「大丈夫。体力はつけるもんだから」と言われて、「なるほどな。まあ、とりあえずやってみよう」と。

\* 大野篤生: 28 回生 現役時 LB EAGLES 28 代主将

SA: 楽しかった思い出のエピソードはありますか?

S: 2 年生から試合に出れて、やっぱり「勝つ」と楽しいですし、自分が「出て」「出てない」で、スカウティングやっても身の入りも違いますし、どんどん楽しくなってきましたね。『ナルシストか!』って位、見ましたね。

その時は、入れ替え戦に行って勝ったんで、凄く楽しかったですね。

SA: 逆にツライ思い出は?

S: 4 年生の最終戦で右腕を骨折した時ですね。

やっぱ最後だったんで。

SA: 思い出の試合はあるかな?

S: 2 年生のリーグ戦、\*都立大学戦ですね。

ボロ泣きましたね。「嬉し泣き」で。

\*武蔵大に負けて、その後のリーグ戦、武蔵大 VS 都立大の結果をじつと待っていて、21-18 で武蔵大が負けた結果を聞いて…なんだろう…「もう 1 回やれる!」みたいなのもあって、都立大に結果 40 点以上差をつけて勝ったんで、凄く楽しかったですね、毎日。

SA: 会心の勝利だったよね。

S: そうですね。あの時良かったのが、武蔵大に負けた後、チームが落ち込まず、\*独協大・埼玉大と順調にいけたのが良かったですね。

SA: そういう意味では、チームが団結していたんだね。

S: 完全に(団結)していたと思います。

\* VS 都立大学(現 首都大学東京) 44-6

\* VS 武蔵大学 13-14

\* VS 獨協大学 29-12

\* VS 埼玉大学 56-6

(共に 2002 SEASON GAME)

SA: EAGLES で学んだこと(得たこと)はありますか?

S: 言葉にするには難しいんですけど、同期の\*建作が良く言っていた『チームは家族』と。

それ位、良い人達と先輩、後輩、スタッフの方を含めて、すごく良い人達と出会ったこともあるし、もちろん最低限の礼儀とかありますし…OB になっても、またココに来たくなっちゃう様な感じですね。

\* 高橋建作: 31 回生 現役時 DE

1 年時 第 7 回 NFL GBJ U-19 日本代表として出場。

4 年時 副将 04 IVY-SAMURAI BOWL ブルドックス(エール大学&関東 1 部 A ブロック&他)として選出 副将として出場

2005~2008 ROCBULL(X1)→2009~ オール東京ガス(X1)

SA: メッセージを頂けますか？

S: そうですね、1年生に。

1年生だと、楽しいところがまだ見えていないと思うんで、もっと続けていくと楽しいはずなので、それを見る(感じる)前に諦めてしまうのは、すごく残念なので、とりあえず1個決めた事を最後までやりきって欲しいと思います。

SA: ありがとうございました。

S: ありがとうございました。



(22.1.27 発行)

佐藤裕介:31回生 現役時 C/T (LINE)

現役時から朗らかな性格と豪快な性格を併せ持ち、言葉通り『縁の下の力持ち』としてチームを牽引。

INTERVIEWER 齊藤拓夫(25回生)

